



学生と新入職員が、ともに気付きを得た1泊2日のインターンシップ 「オータムキャンプ2019」を開催

これから福祉を目指す学生に、少しでも名張という地を知ってもらい、将来に名張市や伊賀市で活躍していただく機会になればと始めたインターンシッププログラム「オータムキャンプ2019」。

2回目となった今年は、愛知県や岐阜県などから来られた学生7名と本年度新卒新入職員の代表3名がともに1泊2日を過ごし、お互い立場を超えてプログラムに取り組みました。

4つの事業所に分かれ、それぞれ個性あるプログラムを体験した2日目のフィールドワークでは、学生も新卒新入職員も、それぞれに大きな気付きを得たようです。

『みはた虹の丘こども園』では、「芝生のようなフカフカの草むらを感じながら空を見るべし!」、「電車に手を振ってクラクションを鳴らしてもらおう!」などの『ミッション』を、園児と一緒に遂行しました。



本当にクラクションを鳴らしてくれた! 願いがかなうってすばらしい!



芝生に寝ころんで空を眺めると、大人では見えないものが園児にはいっぱい映っているかのよう。子どもの創造力には夢があるんだー!

『特別養護老人ホームグランツァ』では、「ちぎり絵」や「フォトフレーム作り」などの創作活動を入居者の方たちと行い、交流を図りました。



『パン工房ういず』では、店員の皆さんと一緒にパン作りに挑戦しました。



それぞれ得意なことを役割として任されていて、みんなイキイキと楽しそうに仕事をしている姿がとてもステキでした!

『ワークプレイス葉』では、利用者の皆さんと交流を図りながら、マスキングアートとシールアートを楽しみました。



手の早い人遅い人、また黙々と行う人や話しかけてくる人など、それぞれのペースや個性を尊重し、寄り添うことが大切なんですね!

最初はお互い緊張していたけど、打ち解けるのに時間はかかりませんでした。思いを持って接すれば、気持ちは通じるものなのですね!



1日目のプログラム

〈表面より〉

さて、フィールドワークを終えて行った報告会では、「どのような事業所なのか」「何を行い、何を学んだか」などをグループでディスカッションし、プレゼンテーションします。短い時間の中で思いをまとめるのは意外と難しいものですが、どのグループも、うまくまとめていました。



センパイ職員によるパネルディスカッションは、事前打ち合わせなしのガチンコトーク!さて、リアルな職員の思いをどのように感じたでしょうか?



懇親会では、管理職や先輩職員などと打ち解けていた様子。裏話なども聞けたでしょうか?



働いている方がみんな輝いて見えただね!さて、どのようにまとめよう?



「生き抜く力」を養う。「成功体験」を積む。先生の、子どもへの思いは尽きないんだね!



「施設ではなく我が家」というコンセプトそのままに、皆さん家族のような温もりを感じました



その人の個性を尊重するということ、改めて実感しました。



この2日間を通じて、多くの思いを語ってくれた報告会。最後に市川知恵子理事長より、今回の体験で得た思いを忘れず、福祉ってやっぱり素敵な仕事なんだ!ということをもみしめて活躍ください、と参加者皆さんの成長を願う言葉を寄せていました。



1日目の懇親会、2日目のフィールドワーク、発表会などの様子は、ブログでもっと詳しくお伝えします。
「MIRAI」ブログ(11月5日、11日更新予定)をぜひご覧ください!



取材:広報委員会

虹の会では随時会員募集しています。

支援を通じた仲間作り。一緒に活動しませんか! 名張育成会後援会・虹の会 0595-65-0271

※「MIRAIレポート」「専門職だより」はお休みしました。